

横浜型地域貢献企業として

石井造園は平成20年に横浜型地域貢献企業の最上位認定を受け、24年に2回目の更新審査を受けて、再び最上級の認定を頂きました。次回更新に向けての弊社の取り組みを内部のシステム・外部での活動を内外両方の視点から紹介します。また弊社ホームページ (<http://www.jishi-zouen.co.jp>) やホームページ内のブログでもご紹介しておりますので併せてご覧ください。

社会貢献に関する取り組み

今年も苗木無料配布を行いました。今年度はCSR目標に掲げる500本を大きく超える1000本の苗木を配布する事が出来ました。自社で受注した公共工事の中で400本、イベントに参加して600本配布致しました。3年間で1000本の苗木を配布するという目標も達成することが出来ました。来年度も引き続き750本配布を目標に掲げております。苗木配布の際には是非お越しく下さい。

中学生の職業体験では弊社の社員と共に作業を行いました。「働く事は何か」を考えてもらっています。中学生の職業体験では弊社の社員と共に作業を行いました。「働く事は何か」を考えてもらっています。



中学生の職業体験では弊社の社員と共に作業を行いました。「働く事は何か」を考えてもらっています。

環境に対する取り組み

石井造園は環境問題にも取り組んでいます。CSR方針に「緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します」を掲げ、横浜市の脱炭素の削減(2030年までに30%)に共感し、21車両の3台のうち1台をハイオクで運行し、自社の乗用車全台に急発進・急ブレーキをしないエコドライブを掲げていて事務所内の蛍光灯はLEDを導入しています。

また、ホームページ内には月ごとに水道水と電気の使用量、ガソリン、軽油の使用量(バイオディーゼルの除く)からCO2の排出量を掲げ、情報を公開すると同時に、自社内でも傾向と対策を考える為の資料として活用されています。

情報公開に対する取り組み

石井造園では就業規則も充実させています。育児・介護を行う従業員の時間外労働を一定時間以上しないように取り決めてあります。時間外勤務申請書の提出を義務付け、その結果残業時間

弊社ではホームページ (<http://www.jishi-zouen.co.jp>) を公開しています。この中には会社概要はもちろんスタッフや施工実績、先に出た環境負荷報告等も掲載しています。弊社で行った工事の施工例や社員によるブログも公開し、普段あぐらページを作りました。皆様よりお問い合わせください。

ワークライフバランスに関する取り組み

石井造園では就業規則も充実させています。育児・介護を行う従業員の時間外労働を一定時間以上しないように取り決めてあります。時間外勤務申請書の提出を義務付け、その結果残業時間

弊社ではホームページ (<http://www.jishi-zouen.co.jp>) を公開しています。この中には会社概要はもちろんスタッフや施工実績、先に出た環境負荷報告等も掲載しています。弊社で行った工事の施工例や社員によるブログも公開し、普段あぐらページを作りました。皆様よりお問い合わせください。

「社」横浜市造園協会や建設業災害防止協会からの情報や、その改正に対応できるように努めています。個人情報保護に関する規定を策定して運用しています。毎月、社員同士で勉強会を開き、法令等の周知徹底を図っています。

「信頼」と「ネットワーク」で結ばれる豊かな市民生活の実現を目標に、本業・その他の活動を通じ、地域貢献の視点で雇用や環境などの事業活動に取り組んでいる企業や事業体を、一定の基準地域志向CSRマネジメント・システム規格のもとに「横浜型地域貢献企業」として認定し、その成長・発展を支援する事業です。

CSRと横浜型地域貢献企業って?

CSRとは?

企業の活動に関して社会的責任が求められる。はつきりと説明できないと社会からの信頼を得られなくなり企業自体も続かないということ。 「信頼」と「ネットワーク」で結ばれる豊かな市民生活の実現を目標に、本業・その他の活動を通じ、地域貢献の視点で雇用や環境などの事業活動に取り組んでいる企業や事業体を、一定の基準地域志向CSRマネジメント・システム規格のもとに「横浜型地域貢献企業」として認定し、その成長・発展を支援する事業です。



日米桜交流100周年 シドモア桜植樹

1912年に日本から友好・親善のため、米国ワシントンDCに桜が寄贈されて百年となります。桜が植えられたポトマック河畔一帯は、その後世界的な桜の名所になりました。桜の寄贈に尽力したのは、当時横浜に滞在した米国人紀行作家のエライザ・R・シドモアさんと世界的科学者で実業家でもある高峰譲吉さんでした。この桜は、横浜港から渡米していきまし。 2012年にポトマック河畔の桜から採取した穂木を仕立てた苗木が、日本に144本贈られ、その内の貴重な1本が「シドモア桜」100周年・里帰りを喜ぶ市民の会」の貢献により、桜区に贈られました。 日米桜交流100周年を記念した「里帰り桜」植樹式が3月23日に本郷台駅前広場で行われ、桜区に贈られたシドモア桜を石井造園が大切に保管し、植樹式に向け本郷台駅前に植樹及び樹木板の設置を行いました。当日は本郷台小の児童が桜を囲むように花を植え、これまで学習してきた日米桜交流の歴史を劇にて上演しお祝いしました。また、桜区と共同で石井造園ではハナミズキとトサミズキの苗木を無料配布しました。日米交流に直接携わった事で、大変光栄に思っています。

今年も仙台の仮設住宅に憩いの場

東日本大震災発生の日後に弊社社長が南三陸町と気仙沼の被害状況を視察しました。その折、ソーケングループの有吉社長様よりご縁をいただき、以来仙台あすと長町の仮設住宅の皆様と交流をもたせて頂いております。 去年は社長が仮設住宅で不自由な思いをなされている皆様に向け、日本人の心にDNAとして刻まれた、桜の木を3本植樹させて頂きました。今年には社員3人が継続支援としてサツキツツ



年間1000本の苗木配布を実施



造園業として何が出来るか。地域の方々、また環境に対してどう貢献できるか。弊社では日々考えています。その中でも力を入れているのが「苗木配布」です。24年度は500本の苗木を配布する目標を立てましたが、年を終わってみると、目標を遙かに超えて、1000本の苗木を配布することができました。 苗木は、三春情報センター様主催の「横浜サローネ」様による「本郷台駅前キャンドルナイト」、公共工事に伴って行ったものなど、本年度は多岐に渡り多くの方

ついでに、無理なく、達成感のある活動

CSR企業と連携して活動 東京で活動をしている窓の御業者マテックスさん、地元区民のビルメンテナンス会社大村ササキさん、港南ターミナルの主催するイベントで弊社の得意とする間伐材を使ったルームプレート作りや苗木の配布を行いました。弊社の培ってきた技術や経験を他社のCSR活動とコラボレーションする事により、お互い優れた成果を生み出せました。 また、活動の幅が増えて、異業種との顧客とシェアリングをする機会を得ました。弊社はまちの造園屋です。行える活動は企業規模に比べますが、コラボレーションする事で弊社の業を生かした活動は光を放つ事が出来たと思えます。また、他企業との社員さんと思いを共有する事が出来ました。これからの連携して頂ける企業に感謝と尊敬の想いを抱きつつ、お互い楽しく活動してまいります。

